

## 沖永良部島の鳥類相

中村麻理子・鯨島正道

〒 899-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-12-42 第一幼児教育短期大学内鹿児島県野生生物研究会本部

### はじめに

鳥類相とは、その地方に生息・出現する鳥類の種類のことである。地域別の鳥類相の把握は、広い意味での「鳥類の保護」に通ずるものがある。

鳥の生活は年周期を通してみると、繁殖期と非繁殖期からなり、その間に渡りを行う移動性のものと、周年定着性のものがある。鳥類は移動の観点から、渡り鳥（夏鳥・冬鳥・旅鳥）と留鳥（漂鳥・真留鳥・半留鳥）に区別されるが、これらの区分は地方によって異なることになる。例えば同一種であっても、地方により留鳥であったり、通過鳥に過ぎなかったりする場合がある。このことから地方ごとの鳥類季節の研究は重要である。また鳥類の移動は、種類毎に渡来・渡去の時期や移動経路が異なるため、地方ごとの情報は、自然環境の保全という課題に応えるためにも極めて重要な基礎資料である。

奄美諸島のような海上に点在する島は、渡り鳥にとって重要な移動経路になっている。奄美諸島の鳥類相や鳥類季節についての主な論文・報告は、黒田（1969）、清棲（1978）、鯨島（1996）、高ほか（1997）、所崎・山元（1999）、中村・鯨島（2010、2011）があるが、島嶼別での確認事例は断片的であり、鳥類相についての詳細な情報も少ない。

今回、奄美諸島の一部である鹿児島県の沖永良部島で2年間滞在する機会を得、鳥類の生息状況

を観察・記録した。本報告では可能な範囲内での確実な記録として、絶滅危惧種に指定されている15種を含む103種が確認され、渡り鳥が通過する重要な移動経路となっていた。絶滅危惧種ならびに稀に観察される種については、生態写真を添えてここに報告する。

### 材料と方法

調査期間は、2008年4月～2010年3月までの2年間である。一部の鳥類は期間外の前後に行った調査時の確認種も含まれる。調査範囲は沖永良部島全域を対象とした（図1）。

報告した鳥類の種名・学名、分類体系は「日本産野生生物目録」（環境庁、1993）に準拠した。鳥類の季節的な移動の把握には、種別の滞在期間を月別に横線を引いて示す方法を用い、出現の型は夏鳥・冬鳥・旅鳥・迷鳥・留鳥（漂鳥・真留鳥・半留鳥）に区分した。本報告は、2年間という短期間であることから、調査期間の間に確認された鳥類の種類・鳥類季節・生息環境の把握を目的とした。

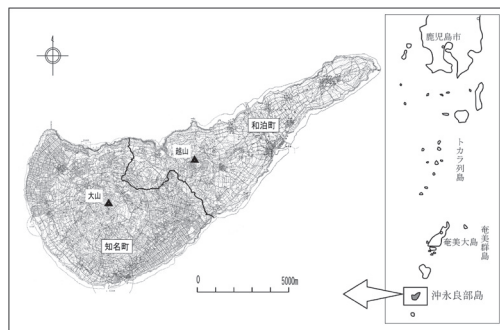


図1. 沖永良部島の位置図。

Nakamura, M. and M. Sameshima. 2012. Avifauna of Okinoerabu-jima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 38: 63-71.

✉ Kagoshima Wildlife Research Association, Daiichi Junior College for Infant Education, 1-12-42 Kokubu-chuou, Kirishima, Kagoshima 899-4395, Japan (email: MN, nakatatsu@po3.synapse.ne.jp).

## ■ 結果

### 1. 鳥類相と絶滅危惧種

調査の結果、15 目 40 科 103 種が確認された（表 1）。環境省自然環境局野生生物課（2002）と、鹿児島県環境生活部環境保護課（2003）のレッドデータブック（以下 RDB とする）に掲載されている種は 21 種であった（表 2）。絶滅危惧種の生態写真を図 2 に、稀に観察される鳥類の生態写真を図 3 に示す。

### 2. 鳥類季節と出現の型

確認された鳥類の種別の生息期間（滞在期間）と出現の型を表 1 に示す。

### 3. 生息環境の選択

鳥類は、種によって環境選択がある。種によって選択要求が強い種と弱い種があるが、確認された鳥類を大まかに環境別に区分した（表 3）。自然環境は、森林鳥類群集・草原鳥類群集・移水帯鳥類群集・内（淡）水面鳥類群集・外（塩）水面鳥類群集に、人為環境は農耕地・荒地・市街・庭・公園・港・漁港とした。島内の代表的な自然環境と人為環境を図 4 に示す。

## ■ 考察

### 1. 鳥類相と絶滅危惧種

調査の結果 103 種が確認された。沖永良部島の鳥類相について、既存資料の中で沖永良部島と明示された種は、鯨島（1996）は 21 種、高ほか（1997）は 30 種、所崎・山元（1999）は 2 種とある。これらと比較し鳥類相の総数は増加した。既存資料のすべての記載種については、稀に飛来する迷鳥などが含まれるため確認出来なかった。今後とも確認種は増大すると思われる。

絶滅危惧種の確認は 15 種、情報不足や分布特性上重要な種を含めると、合計 21 種の RDB 掲載種が確認された。一般的に、これら絶滅危惧種は生息環境の減少や悪化が原因とされ、対策や改善が求められている。生態系の栄養段階の上位に位置する鳥類は、様々な餌生物を必要とする。島

内に多様な自然を残すことで、鳥類にとって持続可能な沖永良部島として存続することが望まれる。

### 2. 鳥類季節と出現の型

調査の結果、留鳥は 42 種、旅鳥は 22 種、冬鳥は 21 種、夏鳥は 16 種、迷鳥は 2 種確認された。日本で観察される鳥類は、高野（2004）によると、留鳥が 36%、冬鳥が 22%、迷鳥が 16%、旅鳥が 15%、夏鳥が 10% である。沖永良部島では旅鳥の割合が高い。これは島が海洋に囲まれおり、旅鳥の重要な移動経路や休息地になっているからと考えられる。

留鳥の中には、滞在期間が短い種や冬季に滞在する種が含まれているが、これらの種は通過鳥であると考えられる。例えば留鳥の中でもハヤブサ・シメなどは、滞在期間が短いことから渡りの途中で立ち寄った個体、チョウゲンボウ・キセキレイなどは、冬季の間滞在することから越冬のため飛来した個体であると考えられる。渡りの時期になると、アオサギやバンなどの留鳥の数が増加するが、これは定着性の種の個体群のなかに、移動性の個体群が含まれるからと考えられる。カルガモは、繁殖する定着性の個体がわずかにいるとされるが、冬季のみの確認であり越冬個体であると考えられる。留鳥であるミフウズラ・シロハラクイナなどは、一年を通して観察されていないが、非繁殖期である冬季の確認が困難であることが要因だと考えられる。

旅鳥の多くは、春と秋の短期間の滞在であることから、北上や南下の途中で島に立ち寄った個体である。しかし旅鳥の中には、セイタカシギのように島内で繁殖・越冬し、長期間の滞在が観察されていることから、近年留鳥化している種もあると考えられる。

冬鳥であるカモ類・シロハラなどは、冬季の間滞在し越冬していた。しかし冬鳥の中でも、サンカノゴイ・オカヨシガモなどは、短期間の滞在を経て渡去したことから、他の越冬地へ移動した個体であると考えられる。クロツラヘラサギ・タシギなどは、渡りの時期の滞在であったことから、

表1. 沖永良部島の鳥類相と鳥類季節.

目名	科名	種名	学名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	出現の地
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Podiceps ruficollis poggei</i> (Reichenow, 1902)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Podiceps cristatus cristatus</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Sula leucogaster plotus</i> (Forster, 1844)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Phalaropus lobatus</i> (Temminck et Schlegel, 1850)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Bostrychus sinensis sinensis</i> (Gmelin, 1789)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Bostrychus sinensis sinensis</i> (Gmelin, 1789)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Buridus striatus amurensis</i> (Schrenck, 1860)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Ardeola bacchus</i> (Bonaparte, 1855)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Bubulcus ibis coromandus</i> (Boddart, 1783)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Egretta alba</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Egretta intermedia intermedia</i> (Wagler, 1829)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Egretta garzetta garzetta</i> (Linnaeus, 1766)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Egretta sacra sacra</i> (Gmelin, 1789)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Ardea cinerea joiyi</i> Clark, 1907													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Ardea purpurea manilensis</i> Meyen, 1834													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Platalea leucorodia leucorodia</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Platalea minor</i> Temminck et Schlegel, 1849													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas poecilorhynchos zonorhynchos</i> Swinhoe, 1866													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas crecca</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas strepera strepera</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas penelope</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas acuta acuta</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anas chryseata</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Aythya ferina</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Aythya fuligula</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Accipiter soloensis</i> (Horsfield, 1822)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Accipiter gularis</i> (Temminck et Schlegel, 1844)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Buastur indicus</i> (Gmelin, 1788)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Falco peregrinus</i> Tunstall, 1711													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Falco tinnunculus interstinctus</i> Horsfield, 1840													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Phasianus colchicus</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Turnix susinator okinawensis</i> Phillips, 1947													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Porzana fusca</i> (Linnaeus, 1776)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Anaetha phoeniceus chinensis</i> (Boddart, 1783)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Gallinula chloropus indica</i> Blyth, 1842													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Fulica atra atra</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Hydrophasianus chirurgus</i> (scopoli, 1786)													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Charadrius dubius curonici</i> Gmelin, 1789													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Charadrius alexandrinus</i> Linnaeus, 1758													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Charadrius mongolus</i> Pallas, 1776													留鳥
カヅツリ	カヅツリ	カヅツリ	<i>Phalaropus dominica fuhua</i> (Gmelin, 1789)													留鳥

表1. 沖永良部島の鳥類相と鳥類季節 (つづき).

目名	科名	種名	学名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	出現の 鳥類
ナトリ	雀	キツツク	<i>Arenaria interpres interpres</i> (Linnaeus, 1758)													旅鳥
		ハシ	<i>Calidris ruficollis</i> (Pallas, 1776)													旅鳥
		ハシ	<i>Calidris minutilla</i> (Vieillot, 1819)													旅鳥
		ハシ	<i>Calidris acuminata</i> (Horsfield, 1821)													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa stagnatilis</i> (Bechstein, 1803)													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa nebularia</i> (Günther, 1767)													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa ochropus</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa glareola</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa brevipes</i> (Vieillot, 1816)													旅鳥
		ハシ	<i>Tringa hypoleucos</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Xenus cinereus</i> (Guldenstadt, 1775)													旅鳥
		ハシ	<i>Limosa limosa melanoides</i> Gould, 1846													旅鳥
		ハシ	<i>Numenius arquata orientalis</i> Brehm, 1831													旅鳥
		ハシ	<i>Numenius phaeopus variegatus</i> (Scopoli, 1786)													旅鳥
		ハシ	<i>Scolopax rusticola</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Gallinago gallinago gallinago</i> (Linnaeus, 1758)													旅鳥
		ハシ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i> (Linnaeus, 1758)													旅鳥
		ハシ	<i>Glareola maldivarum</i> Forster, 1795													旅鳥
		ハシ	<i>Sterna hybrida javanica</i> Horsfield, 1822													旅鳥
		ハシ	<i>Columba janthina</i> Temminck, 1830													旅鳥
		ハシ	<i>Streptopelia orientalis simpsoni</i> (Stejneger, 1887)													旅鳥
		ハシ	<i>Sphenurus formosae permagnus</i> (Stejneger, 1887)													旅鳥
		ハシ	<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> Latham, 1790													旅鳥
		ハシ	<i>Otus scops elegans</i> (Cassin, 1852)													旅鳥
		ハシ	<i>Ninox scutulata</i> (Rafines, 1822)													旅鳥
		ハシ	<i>Chaetura caudata caudata</i> (Latham, 1801)													旅鳥
		ハシ	<i>Apus pacificus</i> (Latham, 1801)													旅鳥
		ハシ	<i>Halcyon coromanda</i> (Latham, 1790)													旅鳥
		ハシ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i> Gmelin, 1788													旅鳥
		ハシ	<i>Eurystomus orientalis calomys</i> Sharpe, 1890													旅鳥
		ハシ	<i>Upupa epops saturata</i> Lomberg, 1909													旅鳥
		ハシ	<i>Jynx torquilla</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Hirundo rustica</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Hirundo tahitica namiyei</i> (Stejneger, 1887)													旅鳥
		ハシ	<i>Motacilla cinerea robusta</i> (Brehm, 1857)													旅鳥
		ハシ	<i>Motacilla alba</i> Linnaeus, 1758													旅鳥
		ハシ	<i>Anthus hodgsoni</i> Richmond, 1907													旅鳥
		ハシ	<i>Pericrocotus divaricatus teginae</i> Stejneger, 1887													旅鳥
		ハシ	<i>Hypsipetes amaurotis</i> (Temminck, 1830)													旅鳥
		ハシ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i> Temminck et Schlegel, 1847													旅鳥
		ハシ	<i>Lanius cristatus lucionensis</i> Linnaeus, 1766													旅鳥
		ハシ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i> (Pallas, 1776)													旅鳥
		ハシ	<i>Monticola solitarius philippensis</i> (Müller, 1776)													旅鳥
		ハシ	<i>Turdus chrysolaus</i> Temminck, 1831													旅鳥
		ハシ	<i>Turdus palliatus</i> Gmelin, 1789													旅鳥
		ハシ	<i>Turdus naumanni</i> Temminck, 1820													旅鳥
		ハシ	<i>Cettia diphone</i> (Kittlitz, 1831)													旅鳥
		ハシ	<i>Cisticola juncidis bruniceps</i> (Temminck et Schlegel, 1850)													旅鳥

表1. 沖永良部島の鳥類相と鳥類季節 (つづき).

目名	科名	種名	学名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	出現の型
スズメ	スズメ科	スズメ	<i>Muscicapa griseivitta</i> (Swinhoe, 1861)													旅鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton, 1839)													夏鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Zosterops japonica lochochoensis</i> Tristram, 1889													留鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Emberiza spodocephala</i> Pallas, 1776													留鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Loxia curvirostra japonica</i> Ridgway, 1885													冬鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i> (Linnaeus, 1758)													留鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i> Stejneger, 1885													留鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Sturnus philippensis</i> Foster, 1781													夏鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Sturnus cineraceus</i> Temminck, 1835													留鳥
	スズメ科	スズメ	<i>Corvus macrorhynchos connectens</i> Stresemann, 1916													留鳥

備考1. 種名, 分類体系は「日本産野生生物目録」(環境庁, 1993)に従った。備考2. 種名は種レベルで記載。備考3. 形態・生態で亜種として識別できたものは, キジバト (リュウキュウキジバト), ズアカアオバト (リュウキュウズアカアオバト), コノハズク (リュウキュウコノハズク), サンショウグイ (リュウキュウサンショウグイ), アカモズ (シマアカモズ), メジロ (リュウキュウメジロ), ハシブトガラス (リュウキュウハシブトガラス) (カッコ内は亜種名)。備考4. 著者が形態・生態で亜種として識別できなかったものは, ツミ (リュウキュウツミ), ヒクイナ (リュウキュウヒクイナ), アオバズク (リュウキュウアオバズク), アカシヨウビン (リュウキュウアカシヨウビン), ヒヨドリ (アマミヒヨドリ), ヨドリスズメ (リュウキュウヨドリスズメ), サンコウチヨウ (リュウキュウサンコウチヨウ) (カッコ内は亜種名)。備考5. 出現の型は, 「日本の野鳥」(高野, 2004)の区分に従った。備考6. 出現の型の定義—夏鳥: 春に島の地域から渡ってきて繁殖し, 秋には島の地域に渡去する鳥で, 日本には春から秋までいる鳥。冬鳥: 春から夏にかけて北の地域で繁殖し, 秋に日本に渡来して越冬し, 春には北へ渡去する鳥。旅鳥: 日本より北で繁殖し, 日本より南で越冬する鳥で, 日本には春と秋に北上と南下の途中で立ち寄る。迷鳥: 台風やほかの鳥の群れに入るなど, 何らかの事故で, 本来の渡りのコースや分布域からはずれて渡来した鳥。留鳥: 日本で一年中見られる鳥。遷鳥: 日本全国を季節によって移動する鳥。

渡り途中の個体と考えられる。

夏鳥の多くは, 渡りの時期にのみ観察され, 繁殖地・越冬地へ移動する通過鳥であると考えられる。しかし夏鳥の中でも, アマサギやチュウサギなどは夏～冬季に渡って観察されており, 越冬個体が含まれると考えられる。サシバは, 渡りの時期から冬季にかけて観察されており, 越冬地になっていると考えられる。

確認された留鳥・冬鳥・夏鳥は, 短期間の滞在となる種が多い。これは島が比較的小さいため, 多数の鳥の長期滞在には向かないからと思われる。面積の小さい島は, 飛来数が少なく観察される鳥類に偏りが生じることから, 鳥類季節は今後の詳細な調査によって変動すると思われる。

### 3. 生息環境の選択

沖永良部島は面積が約 95 km<sup>2</sup> で大部分が隆起珊瑚礁でおおわれた平坦な島であり, 自然植生は少なく平地や低山地は農耕地や集落地になっている

表2. 環境省と鹿児島県のRDB掲載種.

種名 (亜種名)	環境省 RDB	鹿児島県 RDB
サカゴイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
ヨゴイ	準絶滅危惧	—
リュウキョウヨゴイ	—	絶滅危惧Ⅱ類
チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ハラサギ	情報不足	準絶滅危惧
クロハラサギ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
ミサゴ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ツミ	—	情報不足
サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	—
ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ミウヅラ	—	絶滅危惧Ⅱ類
ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	—
セイタカサギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ツバメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
カスバト	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ズアカアオバト	—	分布特性上重要
リュウキュウコノハズク	分布特性上重要	—
ブッポウサカシ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
ツバメ	—	分布特性上重要
リュウキュウツバメ	—	分布特性上重要
シマアカモズ	—	分布特性上重要

備考1. 環境省 RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—鳥類」, 2006年改訂に記載されている鳥類。備考2. 鹿児島県 RDB「鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動物植物—レッドデータブック—動物編」, 2003年に「絶滅危惧Ⅰ類」, 「絶滅危惧Ⅱ類」, 「準絶滅危惧」, 「情報不足」として記載されている動物。備考3. ツミは, 亜種レベル (リュウキュウツミ) までの同定はできなかった。リュウキュウツミであった場合, 環境省 RDB で絶滅危惧ⅠB類, 鹿児島県 RDB で情報不足に指定されている。





図2. 絶滅危惧種の生態写真（環境省 RDB：鹿児島県 RDB）。

①サンカノゴイ（絶滅危惧Ⅱ類：絶滅危惧Ⅰ類）。後蘭，2008年11月29日。②チュウサギ（準絶滅危惧：準絶滅危惧）。後蘭，2009年10月16日。③ミサゴ（準絶滅危惧：準絶滅危惧）。国頭，2010年2月9日。④サンバ（絶滅危惧Ⅱ類：－）。谷山，2010年1月10日。⑤ミフウズラ（－：絶滅危惧Ⅱ類）。後蘭，2009年9月22日。⑥ヒクイナ（絶滅危惧Ⅱ類：－）。後蘭，2008年9月23日。⑦セイトカシギ（絶滅危惧Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類）。谷山，2009年6月13日。⑧ツバメチドリ（絶滅危惧Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類）。下平川，2009年5月25日。



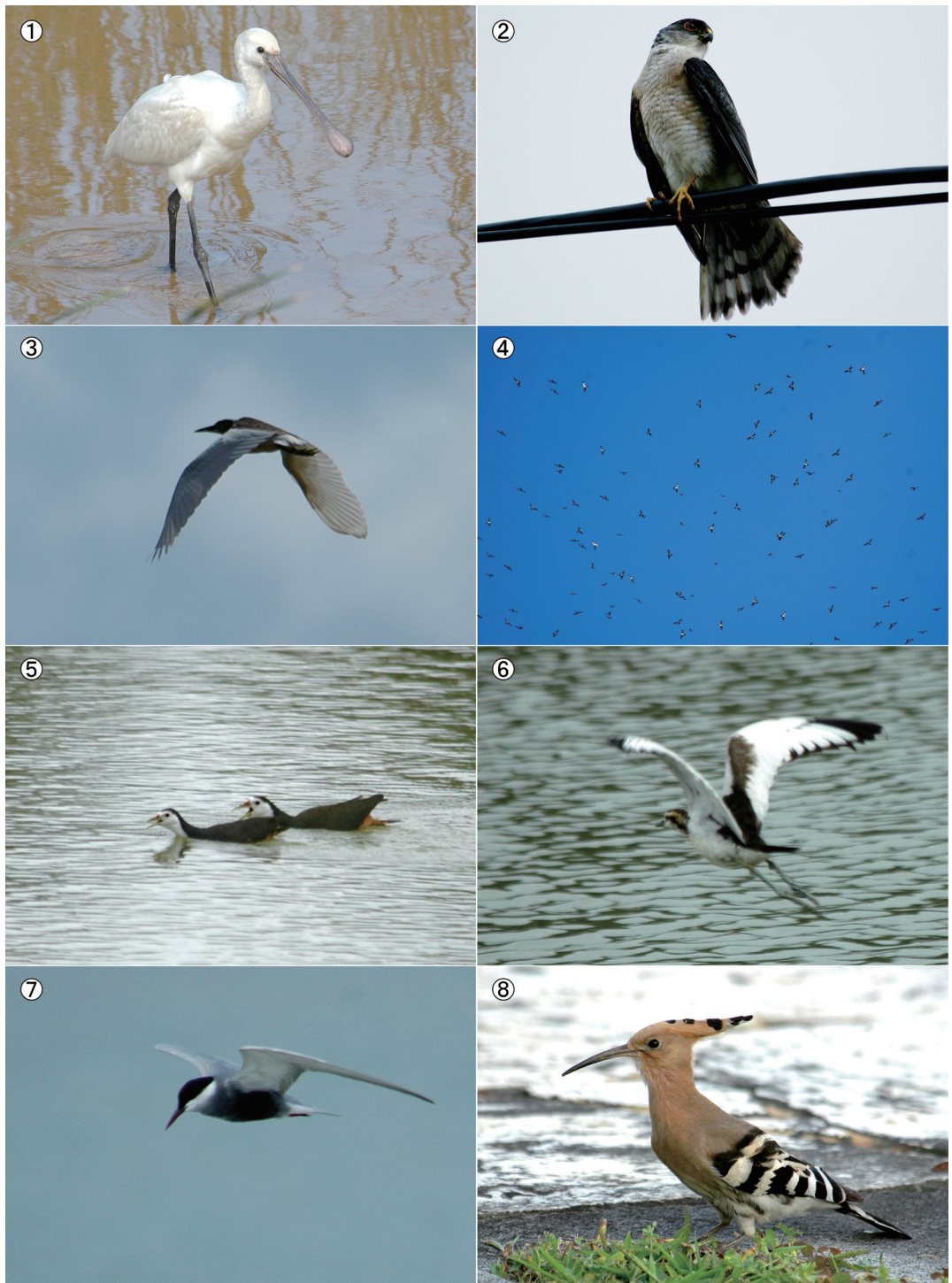


図3. 稀に観察される鳥類の生態写真.

①ヘラサギ (環境省 RDB 情報不足: 鹿児島県 RDB 準絶滅危惧). 谷山, 2010 年 1 月 26 日. ②ツミ (鹿児島県 RDB 情報不足). 後蘭, 2009 年 6 月 14 日. ③アカガシラサギ. 後蘭, 2009 年 9 月 22 日. ④アカハラダカ. 大山, 2008 年 9 月 21 日. ⑤シロハラクイナ. 後蘭, 2009 年 4 月 17 日. ⑥レンカク. 下平川, 2009 年 5 月 17 日. ⑦クロハラアジサシ. 国頭, 2009 年 5 月 30 日. ⑧ヤツガシラ. 知名, 2009 年 4 月 8 日.



図4. 代表的な鳥類の生息環境（上：湿地，下：農耕地・溜池・砂浜）。

る。湿地環境は少ないが、農業用の溜池が大小100箇所以上あり、海岸線は泥質の干潟はほとんどなく砂浜か岩岸となっている。

沖永良部島では移水帯性鳥類が最も多く、湿地・溜池・砂地を利用していた。湿地は繁殖地・

渡り鳥の休息地・餌場として利用されており保全が望まれる。

森林性鳥類群集は、常緑広葉樹林帯のほか、農地として利用度が低いため平地や低山地に残された樹林地を利用していた。特に大山の常緑広葉樹林帯は、秋季にアカハラダカが飛来し、鷹柱を作り群れて南下する姿が観察される貴重な環境である。農耕地内のヘッジロウや点在する樹林地は、飛び石ビオトープとなり鳥類の移動を助ける役割を担っていると推測される。

人為環境である農耕地は、餌場・休息地として利用され、草地は草原性鳥類が利用していた。農耕地などの人為環境では、各種の開発行為に対し「環境に配慮した」工法や考え方が浸透しつつあるので、動植物の生息・生育に配慮した対応が望まれる。

内（淡）水面性鳥類・外（塩）水面性鳥類は、農業用の溜池を休息地として利用していた。海岸に隣接する溜池は、外（塩）水面性鳥類が利用する傾向がみられ、天候が荒れた時の休息地になっていると考えられる。島内の溜池はシート張りになっており、水生植物が生育せず、餌となる動植物の生育・生息に適さない環境である。生態系の

表3. 環境区分と確認種。

環境区分	種 名（亜種名）
<b>【自然環境】</b>	
森林鳥類群集	アカハラダカ・ツミ・サシバ・チョウゲンボウ・カサバト・キジ・ハト・ズ・アカアオハト・ホトキス・リュウキュウコハズク・アオバズク・ハリオアマツバメ・アマツバメ・アカショビリン・ブッポウウ・アリスイ・ビンスイ・リュウキュウサンショウウイ・ヒヨドリ・モズ・シマアゲス・アカハラ・シロハラ・ウグイス・エゾビタキ・サンコウチョウ・メジロ・アオジ・シメ・イスカ・ハシブトガラス
草原鳥類群集	キジ・セッカ
移水帯鳥類群集	カイヅブリ・サンカゴイ・ヨシゴイ・リュウキュウヨシゴイ・サゴイ・ゴイサキ・アカガシラサキ・アマサキ・ダイサキ・チュウサキ・コサキ・クロサキ・アオサキ・ムラサキサキ・ヘラサキ・クロツハラサキ・ヒクイ・シロハラクイ・バン・レンカク・コチドリ・シロチドリ・メダチドリ・キョウジヨシキ・トウネン・ヒバリシキ・ウスラシキ・コアサシキ・アサシキ・タビサキ・キアシキ・イシキ・ソリハシキ・オゲロシキ・ダイシャクシキ
内（淡）水面鳥類群集	カムリカイヅブリ・マガモ・カルガモ・コガモ・オカヨシガモ・ヒトリガモ・オナガガモ・ハシレガモ・オシハジロ・キンクロハジロ・ミサゴ・オハバン・クロハラアジサシ
外（塩）水面鳥類群集	カツオドリ・ウミウ・オシハジロ・キンクロハジロ・ミサゴ・ハヤブサ・クロハラアジサシ
<b>【人為環境】</b>	
農耕地・荒地	アマサキ・ダイサキ・チュウサキ・コサキ・ツミ・サシバ・チョウゲンボウ・キジ・ミウズラ・ムナヅク・ヤマサキ・ツバメチドリ・ツバメ・リュウキュウツバメ・キセキレイ・ハクセキレイ・モズ・ジヨウビタキ・イビヨドリ・シロハラ・ツグミ・セッカ・エゾビタキ・スズメ・ムクドリ・ハシブトガラス
市街・庭・公園	アオバズク・キツバタ・ツバメ・リュウキュウツバメ・キセキレイ・ハクセキレイ・イビヨドリ・ウグイス・メジロ・スズメ・コムクドリ・ハシブトガラス
港・漁港	コサキ・ダイサキ・アオサキ・ミサゴ・イシキ・キセキレイ・ハクセキレイ・イビヨドリ

備考1. 環境区分は黒田長久（1969）に従った。備考2. 区分は、確認種が主に利用した環境に分類し、複数の環境を選択する種については種名を重複させた。



栄養段階の上位に位置する鳥類は、様々な餌生物を必要とするので、餌生物が豊富な環境が望まれる。

現在、野生生物の保全や保護のために、国際法や国内法が整備され、ラムサール条約と国の環境基本法の中では、地球全体における環境保全に向けて協力、連帯が求められている。沖永良部島は、渡り鳥にとって重要な移動経路になっており、中継地点や休息地として極めて重要な場所である。奄美諸島の一部である沖永良部島のような海に点在する島は、鳥類の保全や保護のために多様な自然を残すことが望まれる。

#### 引用文献

鹿児島県環境生活部環境保護課（編）（2003）鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編。財団法人鹿児島県環境技術協会。

環境庁自然保護局野生生物課（編）（1993）日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—（脊椎動物編）。pp. 25–40. 財団法人自然環境研究センター，東京。  
環境省自然環境局野生生物課（編）（2002）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2 鳥類。財団法人自然環境研究センター，東京。  
清棲幸保（1978）日本鳥類大図鑑 I-II。講談社，東京。  
黒田長久（1969）鳥類の研究—生態—。新思潮社，東京。  
中村麻理子・鮫島正道（2010）沖永良部島におけるセイタカシギの繁殖生態—九州での初記録—。Nature of Kagoshima, 36: 11–18。  
中村麻理子・鮫島正道（2011）沖永良部島の繁殖鳥類。Nature of Kagoshima, 37: 9–16。  
鮫島正道（1996）奄美の自然。鹿児島県の自然調査事業報告書 III。鹿児島県立博物館。  
高美喜男・恵沢岩生・岩元さよ子・斉藤康治（1997）奄美の野鳥。奄美野鳥の会。  
高野伸二（2004）フィールドガイド日本の野鳥。日本野鳥の会。  
所崎 聡・山元幸夫（1999）鹿児島県立博物館研究報告，18: 21–42。